



奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞



清掃奉仕で思ったこと

境 寛

私

たちボーイスカウトでは、毎年この時期にスカウトの日と称して、地域の皆さんにスカウト活動を理解していただくためにスカウト活動のPRや地域の清掃奉仕（カントリー大作戦）を行っています。今回わたくしたちの団は県のクリーンキャンペーンも兼ねて、鳥見町から富雄駅までの2kmほど清掃奉仕を行いました。子どもたちは汗を流しながら、ジュース缶やビール缶、煙草の吸殻を回収しました。ここ数年ゴミは大変少なくなっています。数年前までは大きなゴミ袋が7～8袋集まるのですが、今年は3袋でした。公園で保護者からの差し入れのお茶を飲み、清掃奉仕の達成感に満足気な子どもたちの顔を見て、ふとあることを思い出しました。

ちょっと古い話で恐縮ですが、私は1995年チベットの念青唐古拉山脈（ニンチェンタングラ山脈）の末踏峰チズ（6004m）への登山に参加しました。その折の登山隊は40数名の大世帯でしたので当然、多数の現地の荷揚げ要員を雇用したのですが、これがなかなかの集団でした。現地の遊牧民、ガラゴンパ（寺院）の尼僧たちのキラキラした目、屈託のない笑いは大変印象的でしたが、さて荷揚げになると、ちょっと隙をみてだらだらと荷揚げをするという状態でした。まだ、この程度は許せるのですが、問題は登山終了後の装備とゴミの荷降ろしの時に起こりました。登頂の為の前進基地からベースキャンプまでの荷降ろしに20名ほどの現地ポーター（ガラゴンパの尼さん達）を雇っていました。ここで大変な光景を見たのです。空のLPガスボンベの上に、レトルト食品の袋やペットボトル、その他のゴミを乗せて、軽々と歩いているのを驚嘆していたのですが、その時前を歩いていた一人が背の上に手を挙げて、ゴミのビニール袋等を、歩きながらポイ、ポイとほり投げているのです。これには啞然として、次の瞬間大声で怒鳴っていました。しかし彼らには、何を怒られているのか判らなかったのです。しかし考えてみれば、彼らは常日頃からゴミはそのまま大地に捨てていたのです。ごみ回収の意識がなかったのです。彼らには、ペットボトルは液体の容器に、ヤクや牛の糞は拾って壁に塗りつけ乾燥させ燃料にするのですが、破れたビニール袋などは必要がないのです。今でこそ、登山家の野口健さんがマナスル、富士山の清掃登山で投棄されているゴミを回収することをやられていますが、当時のチベットではゴミを回収するということは彼らの頭には何かつたのです。ここで、通訳を通じてごみ回収がどんなに大切かを説明するのに一苦勞したのです。国際化の時代、現地の人たちの生活、宗教、習慣等を理解することがどんなに大変で大事かを痛感させられた出来事でした。

ならやまプロジェクト・レポート 21年9月



(古川 祐司 記)

8月22日(土) 曇り 蕎麦の種まき C地区下草刈り 参加者 32名

- ・笹藪跡の田圃約7アールを全員で笹の根を取り除き、蕎麦の種を播く。蕎麦は荒地にもよく生育し、また種播きから70日で収穫できるので、開拓地や冷夏時の備荒作物としてでも貴重な植物。ならやまの田圃跡で育ってくれば、景観形成にも一役買ってくれるでしょう。
- ・C地区山地は19年度に整備したところに、再び笹などの下草が繁茂し、里山Grのメンバーが中心になって2度目の草刈りをする。今後、里山の整備が進めば、下草刈りなどの管理作業が重要になってくる。

12時終了 午後自由活動

8月25日(火) 晴 パソコン講習会 参加者12名

- ・かねてより適当な講習会をと検討していましたが、鈴木末一さんのご斡旋により、県立朱雀高校情報処理教室のご好意で実現しました。急に決まった話でもあり、事務局のメール・リストに登録されたメンバーに連絡し、12名の参加で実施しました。WORD、EXCELの活用方法、トラブル解決法など、実用本位の内容で好評でしたので、時期を見て第2回目の講習会も検討したいと考えています。

8月28日、29日 見学来訪 計24名

- ・8月28日 奈良育英小学校の校長先生以下8名の教師の方がフィールドを見学。豊かな里山や復元された田畑の状況に大変興味を持たれ、校外学習にも活用できると好評でした。
- ・8月29日 グリーンボランティアいこま「宝の山」のメンバー16名が、里山研修の一環として来訪。折からの雨にもかかわらず、里山整備の先輩の阿部会長の話に熱心に勉強していました。

9月3日(木) 曇り 梅林予定地整備 A,C山地下草刈り 参加者25名

- ・梅林予定地の景観を飾ったヒマワリを撤去し、排水溝、植え穴の作りの準備をしました。
- ・A地区、C地区について下草刈りを続行。灌水用タンク200リットル用を1基設置しました。
- ・9月7日、鈴木さんのトラクターが出動、有志7名が参加して梅林予定地を耕耘、排水溝を作り土質改良剤を散布しました。

12時終了 午後自由活動

9月14日(月) 晴 野鳥観察の日 参加者 5 名

9月19日(土) 晴 会員いもほり大会 シニア自然大学加茂理事来訪 教育実習 参加者40名

- ・早くも咲き始めた蕎麦の花に迎えられて、好天のもと恒例の「会員いもほり大会」が開催されました。サツマイモ、落花生、クリと秋のならやまは魅力いっぱい。畑の土は干天続きで固くなっていましたが、子供たちは熱心にいもほりに取り組みました。お芋が出てくると歓声を上げたり、始めて見る落花生の実に驚いたりしていました。
- ・お昼は、心づくしの野菜てんぷら、名物ならやま汁の振舞いがあり、里山散歩のあとのおやつには、焼き芋のほかに、お隣の農家から差入れのクリが焼き栗になって、皆を喜ばせました。お土産は、サツマイモ、ナスクラブ好意のナス、これもお隣のプレゼントの冬瓜などが配分され、里山の秋を存分に楽しんだ一日となりました。
- ・シニア自然大学から加茂理事が視察のため来訪され、教育実習生7名ともども、イベントや、里山の雰囲気を堪能されていました。

* ならやまの昆虫…秋から初冬へ *

菊 川 年 明

秋はコオロギ・キリギリス・バッタの仲間の季節です。コオロギとキリギリスの仲間は鳴く虫と呼ばれ、わが国では古くから愛でられてきました。昔は虫売りがやって来たり、夜店や縁日でも売られていて、季節の風物詩でもありました。コオロギの仲間も、キリギリスの仲間も、主なものは8月から11月にかけてが盛期です。また、鳴く時間帯は、昼間も鳴いていますが、日没後が本番です。もともと、「キリギリス」そのものは仲間に先駆けて7月初めから成虫が出現し、盛夏からずっと、昼間に「ギース、チョン」と鳴いています。

鳴く虫として主に愛でられるのはコオロギの仲間、スズムシ・マツムシ・クサビバリ・カネタタキ・カンタンなどが有名です。しかし、私自身はエンマコオロギもなかなかの美声と思っています。エンマコオロギが珍重されないのはたくさんいるからではないでしょうか。ならやまでスズムシ・マツムシに限って言えば、スズムシはA地区裾のガマの生えた湿地及びその周辺、マツムシは同じく畑の周辺の草むらや竹藪で、それぞれ鳴いています。鳴き出すのは日没頃からです。

バッタの仲間も夏の後半から成虫が現れますが、最盛期は9月・10月です。イナゴはかつて激減していましたが、近年はだいぶ増えてきて、珍しい存在ではなくなりました。主に目にするイナゴはコバネイナゴです。

夏目漱石の小説「坊ちゃん」に、坊ちゃんの先生が生徒に向かって「なんでバッタを俺の寝床へ入れた」と詰問すると「バッタた何ぞな」と言う。その虫を見せると「そりゃイナゴなもし」と言い返す。「べらぼうめ、イナゴもバッタも同じもんだ」……という一件があります。イナゴとバッタは別のグループとする説があるようですが、私たちのレベルではイナゴはバッタの仲間と考えてよいと思います。しからば、イナゴは食用になりますので、トノサマバッタも食用になるかということになりますと、トノサマバッタもイナゴ同様においしいと言う人、まずいと言う人、硬くてだめだと言う人などさまざまです(いろいろの書物による)。

秋はチョウもよく活躍します。コスモスなどの花にアゲハチョウの仲間、タテハチョウの仲間、セセリチョウの仲間などがよく訪れています。ならやまの農園の一隅に植えてあるフジバカマの花にアサギマダラが訪れることもあります。アカタテハ・キタテハ・ルリタテハ・キチョウなどは成虫で越冬しますので、晩秋まで元気で飛び回っています。

アカトンボ(アカネ属トンボの俗称)も秋の風物です。アキアカネ・ナツアカネ・リスアカネ・マユタテアカネなどがならやまで見られます。顔の一部が水色のマイコアカネがいることもあります。秋たけなわの頃、アカトンボのオスは真っ赤に色づきます。

以前は初冬になると、落葉樹は葉を落としきって、ぶら下がっているのはミノムシばかりという光景が普通でしたが、近年はミノムシを見かけなくなりになりました。ミノムシの多くはオオミノガの幼虫でしたが、中国からオオミノガヤドリバエというオオミノガに寄生する昆虫(ハエ)がわが国に潜入し、これが増殖してオオミノガを激減させたものです。今ではオオミノガは稀少種となり、絶滅が危惧される存在になっています。



(右の写真はオミナエシの花に来たキマダラセセリ)

ならやま里山林花だより

守口 京子

9月14日(月)ハゼの葉が色づき始め、日毎に秋らしくなっています。

花壇・畑…キンミズヒキ、ギンミズヒキ、フジバカマ、ハギ、ツルボ、ゲンノショウコ、アカバナ、セキチク、コスモス、ニラ、カンナ、センニチコウ、キクイモ、ソバ

野山…ノアズキ、ツルマメ、クズ、イヌタデ、アキノタムラソウ、マルバルコウソウ、アレチヌスビトハギ、チョウジタデ、チヂミザサ、ダンドボロギク、ヌマトラノオ

イネの花の雄しべはよく見るのに雌しべはあるのかなとずっと思っていました。ならやまの田植えの時、苗をわけてもらって家でバケツ栽培をしていましたが、ようやく8月の終わりに花が咲いたので1つ取ってえいの中をのぞいて見えました。雌しべは暗赤色(赤米)のブラシ状でとてもきれい。まるで深窓の令嬢です。やがてえいは閉じ、雌しべは大事に育てられますが、雄しべはえいの外でしばらくかんざしのように風に揺れて花粉を飛ばし、役目を終えて落ちました。数千年続く生命の営みです。ならやまの田んぼの稲穂が垂れてきました。



[シロオニタケ]守口京子

ならやまの9月の鳥

小田 久美子

9月14日5人の参加でした。一年経過し、最後はヒヨドリさんが騒がしい印象の日になりました。次年度からはコースを変更して、又一年間調査を続ける予定です。種類が多くなるコースになると思いますのでご期待下さい。一年の成果は川瀬支部長から11月号で報告があります。

自然俳句欄

すす

篠消えて大化けしてる蕎麦畠 秀夫

赤米のすくすくすくと初穂かな 秀夫

収穫の秋。なら山ファームに実りの期待が膨らむ。

そばうち、餅搗きも楽しみだ。

イベント報告「夏休み わくわく自然体験会-2」

和田 美紀子

8月2日(日)に『山と森林の月間』の一環として奈良市萩町はなはなビレッジにて、奈良市の委託によりイベントを企画しました。ところが当日はあいにくの大雨。警報まで出てしまい、断腸の思いで中止を決断しました。しかし多くの方々にご協力いただきながら準備を重ねていましたし、たくさんのご応募をいただいて参加者を抽選で決定していましたので、中止で終わってしまうのはもったいない!という話になり、急遽、8月23日(日)を延期日に設定して、参加当選者に連絡をとりました。



8月23日(日)は天気に恵まれ、暑すぎない気候の中、皆様に無事楽しんでいただくことができました。参加者は13グループ48名でした。60名前後の予定でしたが、当日にキャンセルが2件あり(インフルエンザの関係でしょうか)、結果的に少人数でじっくり体験・観察を楽しんでいただけたのではないかと思います。

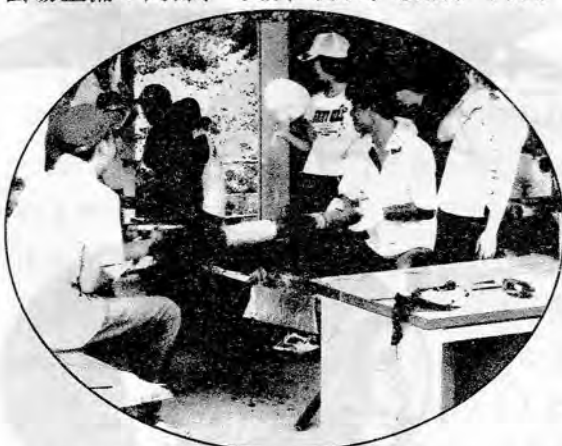
開会にあたり、奈良市萩町観光農園組合代表の吉本様、奈良市農林部より板倉様のご挨拶、奈良県農林部林政課より大谷様の訪問がありました。

プログラムは、午前中は奈良産こだわりの材料で竹バームクーヘン作りと自然工作(竹の水鉄砲・鉄砲作り)、午後は自然観察と間伐体験を行いました。

あっという間に一日が終了し、参加者の皆様に笑顔で(お土産付きで!)帰っていただきました。参加者のアンケートでも大変好評でした。

準備と当日スタッフとしても、本当にたくさんの方にお世話になりました。有難うございました。

参加スタッフ:阿部、古川、水本、塩本、勝田(均)、勝田(緑)、岸谷(順)、岸谷(和)、林、寺田、高松、岡田、橋本、安川、竹本、山中、八木、森川、渡辺、港、和田、岩田
会場整備:阿部、弓場、明石、板橋、平井、中畑、森、寺田、岩田 (順不同)



汗だくのバームクーヘン作り



自然観察で山の中へ

わくわく自然体験

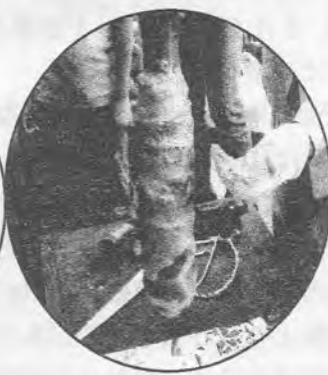
8月23日

はなはなビレッジ

開会式



バームクーヘンのできるまで



おいしそうだね
ピース!!!



水鉄砲作り



どっちが飛ぶか競争だ



大きな木を倒します

ヨイショヨイショ!!!



間伐体験



お父さんがんばる



「きぬいろは」に恋して

港 里味

それは「はなはなビレッジ」に下見に行った時だった。

現場に立つと、山が「もう一度、土地の人が来て欲しい」というメッセージを発してるように感じた…ならば、地元、いや奈良をもう一度、見つめなおしてみようじゃないか！バームクーヘンの材料も、出来る限り奈良県産モノを使ってみよう。それが全ての始まりだった…。

だが、調べてみると意外とあるようでないものが多かった…卵、大和茶、牛乳、蜂蜜は知っていたが、生クリーム、小麦粉が見つからない。生クリームは、畜産を行っている新庄(葛城市)で見つかると思っていたが、作られていなかった。小麦粉は、ある方を通じて、行政にも探してもらったが返事がなかった…三重や滋賀で見た麦畑を思い出しながら、奈良って、やっぱりあかんのかな？と失意の中、「そうだ！Mさんにお願ひしよう」。このMさん、実は県の森林環境教育で知り合った方で、早速、連絡してみると「奈良でも小麦を作っています」との返事がきた。

小麦の名前は「きぬいろは」、奈良県では桜井市、田原本町、広陵町を中心に130ha 栽培されていますが、全国的には少なく、また大型化した製粉機械(工場みたいにてかい)では奈良県産だけを仕分けして製粉することができないため、他の国産小麦といっしょに扱われ、県産小麦粉としての流通はない。だが、イベントへの思いを説明して「Mさん、小麦粉、手に入れてください」とお願いした。だが、一番困ったのが「きぬいろは」を製粉してくれる所を見つけるのが大変だったらしい…。「らしい…」と書いたのは、全てMさんが手配してくれ、「きぬいろは」は小麦粉になって届いたからだ。初めは小麦粉が手に入れば良かった。だがMさんが「きぬいろは」を仕事の合間をぬって、探してくれているのに、私が何も伝えない訳にはいかない。

参加者の皆さんが「きぬいろは」を通じて、少しでも奈良県のモノに、地産地消に、その向こうには食料自給率まで関心を持ってもらいたい。そこで説明ボードを作り、資料を集め、資料(冊子)にも目を通してもらえるように全て違うメッセージを手書きし、農政事務所には資料(冊子など)を頂き、また麦のサンプルを欲しいと無茶を言い、そして材料が届くことへの感謝を伝えるBOXを作った。しかし、力を出し過ぎた、がんばりすぎた(Mさんへの感謝の気持ちがあつたからかもしれない)、心身ともにクタクタになってしまった。何かを伝えるのは、料理に似ていると思う、ファーストフードには何も感じないが、手のかかった料理には味の良さもあるが、何かしら心に響くものがある。その何か、心に響くものを伝えたくて、がんばって手をかけてしまった。

(伝えたいメッセージが届いているのか？は別の話であるが…)

最後に「きぬいろは」に出会えたのは、人とのつながりと優しさだと思います。

もしかしたら一生、街ですれ違うだけで、話す事がないかもしれない人に、何かしら縁があつて、出会って、そこから何かが始まっていったり、生き方が変わったりしていく。出会いは不可思議なもの。佛教には色即是空、つまり「全てのものは移り変わっていくので、空(無)である」というが、全て何も無いなら、日々の出来事は、本当に愛おしいものである。

これからも、今までの縁を大切に、新しい縁をつないでいきたい。

素晴らしい出前教室 盛況・成功！でした。

佐保台小「校庭の自然観察会」

1. 観察会の実施日時：H21.9.16（水）14：30～16：30
2. 場所：佐保台小学校 西村 和夫 校長
3. 主催：佐保台ゆめ教育プラン協議会 野田会長 中久保さん、三田村章子さん
4. 主旨：奈良市・ゆめ教育プランに基づく課外授業の一環、校庭の自然観察会を行なう。
5. 対象：低学年・中学年を中心に20名程度の予定 高学年は比較的少ないとの予想
但し、実際の応募状況を見てみないと、人数・学年ともなるといえない模様
6. 参加スタッフ：岩田、小田、木村、倉田、小嶺、塩本、寺田、橋本、林、平岡の
10名の予定

秋晴れの午後 スタッフの皆さんは、PM1:00には集合され 事前準備に追われておられました。当日の参加者は、予想外の多人数46名にもなっていました。平井さんも加わって リーダー倉田さんと最終打ち合わせを済ませスタンバイ。定刻前に 図書室にはいった児童たちは、にぎやかで図書室は割れんばかりでした。

「植物観察」は、スポーツやお遊戯などと違って、地味な学習 いったいどんな展開になるのだろうか？ とカメラを片手にし校庭にでました。各班 講師の皆さんが、今日のために工夫を重ねてこられたアプローチで、子供たちに語りかけ 返事がかえっています。スムーズな出足です。その一瞬で 観察会の成功を確信しました。

適切なグループ分けがなされているため、その学年に合わせた 会話が進行しています。日ごろ見慣れた様々な植物が、色彩を帯びて一人一人の児童に近かずいてきたのです。五感を働かせた「体験学習」です。参加児童の皆さんたちは、知らず知らずに 自然＝植物に興味を持ち 感動をうけとめ、何かを感じ取り 得難いお土産を胸に帰宅しました。その夜は また家族で会話が弾んだことであろうと思いました。

7月7日のインタープリテーション講座から始まり 予想外に早い 出前教室となりました。さすが 皆さんの熱意と周到な準備がこの実績・感動を呼びこんだものと思います。翌朝校長先生は、“しおり”や“シュウ酸の効果”を児童から聞かされたとお話されていました。素晴らしい 一日となりました。

阿部 和生





小学校の校庭観察会やファミリー向け観察会を今後「奈良・人と自然の会」の展開の方向の一つとして挙げられている。去る9月16日佐保台小学校の「ゆめ教育プラン」に基づく課外授業の一環として、校庭観察会がよいお天気の下、行われた。

この観察会にあたっての準備は、7月7日インプリ入門講座（ならやまBC）。7月27日佐保台小学校の校庭の下見。そして、マツ・クローバー・カタバミ・匂い（クヌギ・ゲッケイジュ・ハクカグラ）・スカイウォーク・クロガネモチを取り上げることにした。その日のうちに倉田さんより、インプリモデルと、校庭マップが、メールで届き、8月31日佐保台小学校でのリハーサル。スタッフの前でするインプリは、とてもドキドキ緊張して、言いたいことが飛んでしまったり、頭が真っ白になったりした。

話は変わるが、7月2日の守口さんのならやまの観察会では、たとえば、ヤマウルシについて、特徴、ハゼとの違い、使い道、歴史に至るまで幅広く紹介してくれ、とても楽しく、（私もこんなインプリが出来たらいいな〜）と思った。また、8月23日はなはなビレッジでの林さんのインプリは、導入で子供たちに「動物と植物の違いは何だろう？」というやさしい口調の問いかけから始まった。一方通行でない、素敵なインプリに感動した。林さんに「その導入を使わせてもらっていいですか。」と許可を得て、9月16日本番、私は、目をキラキラさせている小学校3・4年生を前に「動物と植物の・・・」と始めた。初めはカタバミ、みな身を乗り出して葉っぱを観察。夜、葉を閉じること、種は数メートルとぶことなどをクイズ形式で進め、次に10円玉みがきは、みな必死になってきれいにし、喜んでくれた。葉っぱをかじらせると、「すっぱーい。」と予想通りの反応。滑り出しは順調だ。次は、パートナーの寺田さんの説明の番「匂い」。大きな声の堂々たる花の匂いの説明、木の匂いの説明、子供たちに葉っぱを匂わすタイミング、おみごと！「いい匂い」とか「くっさー」とか言い合い、笑う。本当に楽しい。中にはハクカグラの香りが森林の匂いがして好き、なんて子もいた。次はスカイウォーク。鏡を鼻の下に置き、上の方を映して歩く。これは鳥になった気分ですごく楽しく、文句なく楽しい。

次のクロガネモチの葉っぱに字が書けるのには、ことの外驚いていた。残りはマツとクローバー。マツでは少しだれてきた。話に引きつけられず、一部の子が離れて座り込む。焦る。そこで、パートナーの寺田さんがサポートしてくれて、何とか次のクローバーへとつなぐ。花の数は、たくさんの花の集まりだということを意外と多くの子が知っていた。花の数を数え、小さなさやの中の種を見つけ、無事ゴール。ほっとした。教室に戻り作った葉、字を書いたクロガネモチの葉、ピカピカの10円玉をお土産に持ち帰ってもらった。みな笑顔。みないい子たちだった。

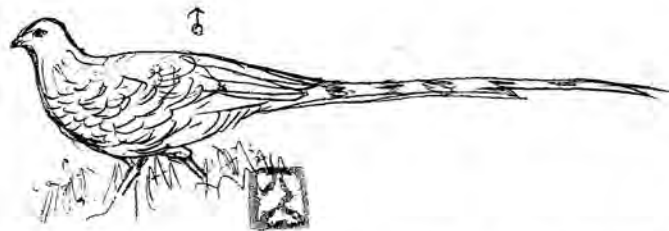




通好みの彩り ヤマドリ

小田 久美子

『あしびきの やまどりの尾の
しだり尾の ながながし夜を
ひとりかも寝む』〈夜はひとり
寝するといわれる山鳥のように
私も長い長〜い秋の夜を独り寝るの



かなあ)「の」が繰り返して出てくるテンポある不思議な魅力の歌。ご存知、歌聖「人麻呂」の作品です。

『足引きの山鳥の尾のしたりがほ 人丸ばかり歌神(うたかみ)でなし』と後の狂歌に残っています。いつの時代も僻みっぽい、いえ、ウィットのある人はいるものですね。ヤマドリは日本固有の鳥でキジより少し大きく、歌の形容に引き合いにされるように雄の尾はとても長いのです。その美しい尾は、昔から矢羽などに使われ珍重されて来ました。雌はキジのメスと似ていてチラリと見ただけでは見分けが難しい地味な鳥です。山裾の開けた人里にいるキジは意外に身近な鳥ですが、一方のヤマドリは広い広葉樹の森にと棲み分け、ひっそり生活をしていてなかなか出遭えません。私は2回だけニアミスのような出遭い方をしただけの憧れの鳥です。そんなヤマドリに何度も出会える人がいるのです。ゴルフ場の芝刈りをしている人の前後を歩いたり突いたり「時には噛み付きよんねん!!」先日そんな事をのたまう殿方がいました。私たちバーダーにはとても羨ましい話です。

<癒しの散歩道>

麗しき秋の暮情のかけらを拾い集めて

谷川萬太郎

季節に恋としたサルビアが紅く燃え まるで一筋の花が愛を語るように
眩しい自然の心の中にそっと溶け込んで 胸の鼓動が密やかにときめく
思えば山茶花の甘い香りに酔いしれ 小さな夢を抱いたあの頃が懐かしい
初秋に別れの詩を口ずさむ枯葉よ その可憐な眼差しと哀れみに波誘う
振り向けば川の流れの遙か遠くにさ迷う 旅路の果ての夕映えに光輝く暮情よ
夕暮れに手を広げるように飛び立つ鳥たちは 群れにまぎれず後追いかけて
パレットに溶かした絵の具のように山裾が華やいて 茜色も艶やかに繰広げる秋の宴
刻む時の行方とかならずと呑んで静かに見守る 仰ぎみてなお高く見上げる秋の空よ

般若寺のコスモス

花 の寺として、般若寺はコスモスで大変有名です。飛鳥時代に僧慧灌（えかん）によって開かれたお寺ですが、幾度もの戦乱に巻き込まれ栄枯盛衰を繰り返し現在に至っています。鎌倉時代に再興された国宝の楼門（ろうもん）をくぐると約十万本といわれるコスモスと天平7年（735）聖武天皇が造営されたと伝えられている十三重の石塔が迎えてくれます。

コスモス（和名 アキザクラ〈秋桜〉）

キク科 双子葉植物

原産地 メキシコ

花期 7月から12月上旬

花言葉は、少女の純真・真心

誕生花 10月5日

（他に7月16日、8月14日）

学名 *Cosmos bipinnatus*

Cosmos : コスモス属

bipinnatus : 二回羽状の

Cosmos は、ギリシャ語で、秩序・調和を意味する「kosmos」に由来する。



般若寺 石仏とコスモス



★9月15日の一日で出会った生き物たち

朝の散歩で道路をちょこちょこ動いている「うーん ネズミじゃないモグラ？」溝に下りたのを確認したらやはりモグラ。「どうして舗装の道を？ 近道だったの？」

・畑で5メートル先から突然キジが「ケーン」と飛び出て私はびっくり。キジもびっくり。

・草引きをしていたら胴回りが2センチ長さが12センチ位のトカゲが口を開けて 苦しそう「どうしたの？」体をみたら怪我をしている。ブロッコリーの種の大きさの真っ黒い目が可愛い。日陰にそっと寝かせる。

・レタスの種を蒔いていたら、アリが目の前でその種を運びだした「何するの！返して！」と 大人の分別もなく取り返した私でした。（毎年毎年種を取られているので）（斎藤）

★斑鳩より4日・9日コシアカツバメがいました。16日田んぼにツバメが12羽いました。

・8日遠くに黒いハトと白いハトが並んで飛んでいました。いつまでも飛んでいるのでおかしいと思って双眼鏡でよく見ると、チョウゲンボウをカラスが追いかけていたのです。カラスに怖いものなしです。

・14日斑鳩小吉田の休耕田にタマシギオス・ヒバリシギ・バン・トウネンがいました。

（勝田）



行事案内

原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止

『ならやま里山林プロジェクト10・11月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR 平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—
（案内地図が入用の方は、担当幹事までご連絡下さい）



日時 10月 8日（木） 一般活動日
10月12日（月） ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
10月17日（土） 公開イベント「里山の秋といもほり大会」（教育実習生受入れ）
10月25日（日） いもほり会（黒髪山自然塾協働イベント）
10月29日（木） ならやま山の日（里山整備）
10月31日（土） 雨天予備日
11月 5日（木） 一般活動日
11月 9日（月） ならやま野鳥観察の日（小雨実施）
11月21日（土） 公開イベント「リース作ろう、バウム・クーヘン焼こう」
11月26日（木） ならやま山の日（里山整備）
11月30日（月） 雨天予備日

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行（平日・土曜）
②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:32発 JR 奈良行（平日）

8:30発 JR 奈良行（土曜）とも佐保台西口、または平城大

橋で下車 徒歩約7分

携行品など

・弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意） 服装は、防暑・防虫にもご注意ください。

*環境保護のため、コップ・箸・碗は各自でご用意下さい。

活動内容

・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成

復元田畑の農事作業、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り

*自由活動日について

火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。活動される方は担当幹事までご連絡下さい。

*担当幹事： 古川 小嶺 岩田

*ならやま野鳥観察

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

☆日程：10月12日（月・体育の日）＜毎月第2月曜日＞

★出発時間・場所：9時・ならやま駐車場

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせください。中止の時は次週に順延。

★担当者：小田

・菊川

10月度例会 生駒路の自然と文化を訪ねる

爽涼の秋、生駒山の尾根筋を経て暗越奈良街道を下ります。自然の風物と歴史・文化遺産を愛で、新しい発見を楽しんで下さい。ほとんど平坦道から下りコースです。
気楽にご参加ください。

記

日 時 : 10月10日（土） * 雨天の際は10月24日（土）
集 合 : 近鉄生駒駅 生駒ケーブル：鳥居前駅改札前 午前10時
・ 橿原神宮前9:10 …八 木9:19 …西大寺9:41（乗換）9:43 …生 駒9:51着
・ 大阪難波〈奈良行・快速急行〉9:20 …鶴 橋9:26 …生 駒9:43着
コース : 歩程・約8km ・〈近鉄一分駅にて4時頃の解散予定〉
近鉄生駒ケーブル（鳥居前＝霞ヶ丘）…生駒山（642m）…展望台（昼食）…
慈光寺…暗 峠…西畑町・棚田…石仏寺…竹林寺…往馬神社…近鉄一分駅
担 当 : 川 井 秀 夫 弓 場 厚 次
★ 当日の天候の判断が難しい時は担当幹事までお問い合わせください。



<11月の予定>

11月例会「奥明日香の秋」

一談山神社から奥明日香の紅葉を楽しみながら稲淵へー

【日時】11月27日（金）

*【予備日】12月4日（金）

【担当】境

・寺田

*詳細は会報第94号（11月号）でお知らせします。

平成 21 年 9 月度幹事会議事録

日時：平成 21 年 9 月 1 日(火)18:00～20:45

場所：奈良市中部公民館

出席：16名、欠席：2名

司会：小嶺、記録：岩田

【報告事項】

- (1) 会員動向・112名（川名さん新入会）
- (2) ならやま里山林プロジェクト：8月参加人員132人（前年同月16名増）
- (3) 山と森林の月間「夏休みわくわく自然体験ー2」
8/23（日）はなはなビレッジにて、12家族43名（大人18、子供25）スタッフ22名で開催。
- (4) 校庭自然観察会進捗状況
 - ① 佐保台小学校 9/16（水）13:30～16:30、観察ポイント6箇所、栞づくり
 - ② 佐保川小学校 10/5（月）3～4時限、シニア自然大学インブリ科と共催で対応する。
- (5) パソコン講習会
会場の関係で開催が早まり、案内はメール連絡で8/25（火）に奈良県立奈良朱雀高校で開催。
- (6) 「三井物産」報告会 22年1月28日～29日、東京にて開催される。
- (7) 奈良県立大学地域創造学部の体験学習受け入れについて協議。

【確認事項】

- (1) 環境フェア（9/22 火・祝）なら100年会館にて開催されるがその対策について
- (2) シニア自然大学・環境科 10/16（金）、来訪予定。
- (3) 10～12月 定例行事確認
 - [10月例会]10月10日（土）「生駒路の自然と文化を訪ねる」、（予備日）10月24日（土）
 - [11月例会]11月27日（金）「奥明日香」（予備日）12月4日（金）
 - [12月例会]12月7日（月）「滝坂の道～忘年会：万葉荘」

編集後記：*会報への投稿者が徐々に増え、内容も豊富になってきました。できるだけ多くの会員によって作られた会報にしていきたいと考えています。文章のほか写真・スケッチ・カットなどの投稿をお願いします。締切日は毎月20日ですが、11月号は10月15日です。奮ってご投稿ください。*会報発送作業は毎月「奈良県西奈良ボランティアセンター」で幹事が行っています。午前9時から約2時間弱です。11月号の発送は10月26日（月）です。ご都合のつく方はご協力願います。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生